



プロキオン 犬のさきがけ

冬の大きな三角の一つ、こいぬ座の1等星「プロキオン」はかなり明るい星なのですが、もっと明るいシリウスの近くに見えることもあり、地味な印象があります。プラネタリウムでは、冬の大きな三角の一つとして取り上げるくらいで、「プロキオン」という名前は『犬のさきがけ』という意味があります。シリウスの少し前に地平線から上ってくることからこのような名前がつけました。」という説明をします。

ところが、日本でも南の方、鹿児島県の南の端あたりまで行くと、シリウスの方が先に上ってくるようになります。計算してみると、緯度が北緯31度20分で同時に上がります。それより北ではプロキオンが先、南ではシリウスが先に上ります。沖縄（北緯27度）では完全にシリウスが先になります。星の名前はアラビア（メッカで北緯24度）やエジプト（カイロで北緯30度）でつけられたものが多いのですが、「犬のさきがけ」という名前は、プロキオンが先に上ってくるギリシャ（アテネで北緯38度）でつけられたギリシャ語の名前です。

日本では、シリウスの「あおぼし」に対してやや白く見えることから「しろぼし」と呼ぶ地方があります。シリウスを「おおぼし」と呼ぶ地方では、「ちいさいおおぼし」などと言ったりします。あまり工夫してつけた名前ではないようです。

シリウスと同じようにプロキオンにも伴星（お供の星）があります。シリウスと同時（1844年）にベッセルによって伴星の存在が予言されましたが、実際に見つかったのは1896年のことです。この間多くの観測者が発見を試み、何人かは見つけたと報告しましたが、いずれも見誤りでした。それは、伴星が主星からわずか4.6秒（木星の直径の1/10ほどの角度）しか離れていない11等級の星だったからです。後に、この伴星（プロキオンBと呼ばれます）もシリウスの伴星と同じように非常に小さくて重い星（白色矮星）であることが分かりました。プロキオンが南中するとその東側はもう春の星座です。



プロキオンの主星 A と伴星 B
Credit: NASA, H. Bond (STScI),
Barstow (Univ of Leicester), WFC2